

しんいん 座光寺の寺院と神社～元善光寺・麻績神社・耕雲寺～

寺院や神社は、人々の信仰の場であるだけでなく、種家の名前や年齢を記した「宗門帳」を管理するなど役場のような仕事も行ってました。また節目ごとのお祭りは地域の人の憩いの場であり、楽しみごとのひとつでした。寺院や神社には江戸時代以前に作られた古い建物や仏像、ご神体となった鏡なども多く残っています。座光寺にある寺院や神社の由緒や建物を調べてみましょう。

元善光寺（座光如来寺）

「元善光寺縁起」によると、開創（寺院の創設）は飛鳥時代（7世紀頃）と伝わる天台宗の寺院です。602年に本田善光が難波（大阪府）から持ち帰った本尊をここで祀り、642年に長野市の善光寺に移したことから、現在では元善光寺と親しまれていますが、古くは如来寺と呼ばれていました。

本尊は新たに彫られた善光寺如来で、7年に1度公開するご開帳があり、今回は2009年4～5月に予定されています。また宝物殿には、持ち帰った本尊を安置すると光り輝いたという「座光の目」が収められています。

・本堂

元善光寺の建物は、1788年（天明8年）に火災があり、現在の建物はその後の再建です。

本堂は5間×7間の大きさです。長野市の善光寺本堂と同じく、暗い地下廊下を一周回って手探りで鐘を探し当てる「戒壇めぐり」ができます。



元善光寺本堂

麻績神社

天正年間（1573年頃）よりも前の開創と伝わっています。麻績神社と呼ばれるようになったのは1875年（明治8年）以降のことで、古くは八幡社、大宮諏訪社と呼ばれていました。1873年（明治6年）、麻績学校校舎が境内に作られるまでは、嶋三社・八幡社・諏訪社・稲荷社・子安社・秋葉社などの9つの社殿がありました。

ご知恵 寺院と神社の違いは？～神と仏は一緒？～

寺院は仏様、神社は神様をおがむところです。よく見ると建物も違います。一般的に寺院には本堂（金堂）・塔・山門（三門）などの建物がありますし、神社には本殿・拝殿・鳥居などがあります。

でも、なかには寺院に鳥居があったり、逆に神社に三重塔があったり、寺院の中に神社があったりするところもあります。これはどういうことなのでしょう？

仏教は聖徳太子などが活躍した飛鳥時代以前に日本に伝来しましたが、平安時代（8世紀頃）にはすでに神と仏は一緒、神は仏が変身したものであるという「神仏習合」という考え方が起こりました。それ以降、神と仏

の違いがよく分からなくなり、寺院の中に守り神として神社を建てたり、逆に神社を管理するために寺院を建てたり（神宮寺という）するようになりました。座光寺でも元善光寺と麻績神社は隣り合わせて建てています。

明治時代になると、逆に「神仏分離」「廃仏毀釈」といって仏教を追い出し、寺院を取り壊す風潮になりました。座光寺には上にあげた元善光寺・耕雲寺以外にも、宗安院・水月庵という寺院や庵がありましたが、1873年（明治6年）に廃寺になりました。

神様も仏様も、一緒に祀られて追い出されたりと、人間にはほとんどご迷惑されていらっしゃるでしょう。

・八幡社、諏訪社（大宮諏訪社）

種札によると、それぞれ1751年（寛延4年）、1804年（文化元年）の再建とあります。どちらも「一間社流れ造」という建築形式の本殿で、雨風から守るため、1916年（大正5年）に作られた本殿に覆われています。

・嶋三社

八幡社・諏訪社の隣に位置し、建物は3間×5間半と奥に長く、本陣と拝殿・後陣が一緒になった建物です。少彦名命・丹生大明神・稲荷大明神の三社がまつられています。

耕雲寺

1541年（天文10年）に開創と伝わる曹洞宗の寺院です。明暦年間（1655年頃）と1770年（明和7年）に2度の火災があり、現在の建物は明和以降のものです。

・本堂

火災の後、1780年（安永9年）から6年間かけて再建されました。10間×7間の本堂で、当初は茅葺きでした。

・山門（羅漢門）

1795年（寛政7年）に建築された山門で、飯田市有形文化財に指定されています。「竜宮造」と呼ばれる形式の建物で、実際はしませんが浦島太郎に出てくる竜宮城

を思わせるようなアーチ型の門が特徴です。二階には釈迦如来像、羅漢像、四天王像が安置されています。



八幡社、諏訪社を収める拝殿



耕雲寺山門

ご知恵 本宮と嶋三社～流れ着いた「お志満さま」～

阿島橋の北側に、大きな杉の木が立っているところがあります。ここは昔、天竜川の洪水で「お志満さま」の像が流れ着いたところで、拾いあげて祀ったことから「本宮（元宮とも）」と呼ばれています。このあたりは「百人新田」と呼ばれ、江戸時代に新田開発されたところですが、天竜川の水害の被害をうけやすいところでした。

その後の何度か洪水があり、そのたびに移動をくり返しました。1690年（元禄4年）の洪水の時には白山に避難し、その後もなく上河原に祀られました。この場所は「明神塚」と呼ばれ、現在では石碑が立っています。



本宮の跡地



明神塚の石碑



現在の白山権現社

さらに1715年（正徳5年）の未満水のときには、明神塚にあった社殿が流されてしまい、1723年（享保8年）に再び白山にうつされました。白山には古くから「白山権現社」があり、参拝の人でにぎわったと伝わっています。

その後、1761年（宝暦10年）に現在の麻績神社の境内の中に「嶋三社」としてうつされました。

古賀比神社

昔は麻績神社・麻績学校校舎の裏山（南本城）の中にひっそりと祀られていましたが、1935年（昭和10年）に麻績神社北側へ遷されました。「古賀比」というのは「蜃倒い」を表す当て字です。養蚕は種や天候によって大きく左右されたので、神頼みの産業でもありました。家にも「蜃玉様」が祀ってあるところもあります。



南本城跡に建つ古賀比神社

現在の建物は2007年（平成19年）に新しく建てられたもので、伊勢神宮（三重県）に倣った「神明造」という形式の建物です。

十王堂

清水地籍の集会所の隣に十王堂があります。うそをつくと地獄で舌を抜かれることで有名な閻魔様も十王の一人です。一般的なお堂といえるほど大きな建物ではありませんが、中には十王を含め20体の石像が収められており、そのうち十王像は1644年（寛永21年）に作られたものです。



右側から十王堂・庚申塔・三十三観音・秋葉塔・金比羅・水神など、いろいろな神様・仏様が祀られています。

水月庵

万才地籍の集会所の位置に、昔は水月庵がありました。もとは宮沢氏の菩提寺だったようで、古くから観音堂がありました。耕雲寺・宗安院とともに伊那西国33番札所に数えられていましたが、明治6年に廃寺となり、石佛・石仏が残され、十一面観音菩薩像が集会所の中で安置されています。

身の回りにも神様・仏様がいっぱい

その他にも、道端には庚申塔や秋葉塔、地蔵などの道祖神の石塔や石仏があり、家の中には氏神や稲荷、水神などの屋敷神が祀られています。身の回りの神様・仏様を探してどのような由来があるのか調べてみましょう。
(金澤雄記)

豆知識

建物の長さ、大きさの表記方法 ～一寸法師は3センチ～

現在では長さの単位として、世界的にmm・cm・mを使いますが、江戸時代以前の日本では尺・寸という単位を使いました。現在でも木造建物の木材の大きさや部屋の広さは尺・寸の単位でできています。

また、建物の大きさをいうときに「2間×3間」という表し方をします。これは横2間、縦3間の建物の広さを表しています。

ここで「1間」とは柱と柱の1つの間を表し、だいたい大人が両手を大きく広げた長さになりますが、地域や建物によって1間の長さが異なります。大きく分けると、関西圏で用いられる「京間」と、関東圏で用いられる「江戸間」の2つがあります。飯田下伊那では江戸間寸法の建物が一般的ですが、茶室や格式高い座敷などには京間寸法が使われることがあります。

例えば日常生活では、カーテンを買うときに江戸間か京間か注意が必要です。東京（江戸間寸法）で買ったカーテンが、京都（京間寸法）では幅が短くて合わないことがあります。4枚ガラスの戸であれば2間幅になりますが、2間幅は江戸間寸法だと12尺、京間寸法だと13尺になり、1尺＝約30cm短いということになります。

尺寸とメートル

- ・1寸＝約3cm
- ・1尺＝10寸＝約30.3cm

間と尺とメートル

<江戸間>

- ・1間＝6尺＝約1m 82cm
- ・1坪＝約3.3㎡

<京間>

- ・1間＝6尺5寸＝約1m 97cm
- ・1坪＝約3.9㎡

例) 2間×3間(12畳)の建物はどれくらいの広さ?

<江戸間>

- 横 2間＝約3m 64cm
- 縦 3間＝約5m 46cm
- 面積 2×3＝6坪＝約19.9㎡

<京間>

- 横 2間＝約3m 94cm
- 縦 3間＝約5m 91cm
- 面積 2×3＝6坪＝約23.3㎡



10間＝1m82cm×10＝約18.2m

麻績学校校舎のような大きな建物でも、実際にメジャーで測らなくても、見ただけで大きさが10間＝約18mとわかります。

江戸間と京間で長さや広さが少しずつ違う

豆知識

古い建物を見学するときの3つのポイント

・調べてみよう

まずは、いつ、だれが、何のために建てた建物なのか調べましょう。建物が建てられた背景を知ることにより、建物をいっそう理解できますし、出会ったことのない当時の人々と建物を通じて会話ができます。

・触ってみよう

古い建物の外側の柱を触るとザラザラしています。これは「風食」といって、最初はツルツルだった柱に、何十年、何百年間も日光や雨風があたって、木材がすり減ったためです。古い木材に触れて時代の流れを手で感じてみましょう。

・彫刻(装飾)をよく見てよう

特にお寺や神社では、屋根まわりにたくさんの彫刻があるのが分かります。竜・獅子・猿などの空想上の生物や、ハスやボタンなどの植物が彫られています。時代によっても彫刻の雰囲気や違いがあります。昔の大工さんの職人技の手仕事をじっくり観察してください。



風食した木材(柱)
開善寺山門(川路)
室町時代初期
国指定重要文化財
飯田市内で一番古い建物で、約600年前の木材が使われています。



麻績神社嶋三社の彫刻
・獅子(ライオンに似た空想上の生物)
・猿(ソウに似た夢を食べる空想上の生物)